

はじめに

学校教育に携わる者として大切にしていかなければならないのは、教育者としての信念であり、その信念に基づく求める子ども像の明確化だと思います。附属長岡小学校では、教育目標「独立自尊」のもと、「ねばり強く探究する」「相手を尊重する」「新しいものをつくりだす」といった子どもの行動特性を希求し、日々の教育活動に取り組んでいます。そして、この子ども像を具現するために「授業」を大切にすること、子どもを見つめ「授業で語り」、学びの本質をとらえようとするを重視してきました。

教育に対する時代の要請は、ここ数年を振り返るだけでも様々に変化し多様化しています。こうした時代であるからこそ、表層的・対処療法的ではない、信念に基づいた「ぶれない教育」を求める姿勢が重要だと考えます。現代的な課題に対しては、教育の本質というフィルターを通してはじめてその解決の糸口や方法が見えてきます。私たちはそのような教育実践の一翼を担いたい、そして、授業や子どもの有り様を見つめる仲間とともに語り合いたい、と強く願っています。

「創造的な知性を培う」は、幼稚園・小学校・中学校をつらぬく連携研究主題として平成16年より掲げてきました。文部科学省指定の研究開発校を中心とした第1次研究を昨年度総括し、本年度より第2次研究として取り組んでいます。その内容は、第1次研究における「科学的な感性」「科学的なものの見方・考え方」を生かしつつ、それらを「学ぶ意欲」「思考力」と発展的に捉える中で、問題解決過程を繰り返す「学び直しの連続」の内実を明確にし、学習過程へ位置づけるとともに、子どもの確かな学力を保証し、人間的な成長に寄与するカリキュラム編成の視点を得ようとするものです。

日々繰り返される授業において、「学ぶ意欲」「思考力」「知識・技能」はどのような関係性をもち高まっていくのか、「基礎・基本」の習得は授業過程においてどのように生かされるのか、「知識・技能」の習得・活用の連続性はいかにあるべきか、そして、確かな学力をつけ人間として成長していくための単元構成はどのようにすれば良いのか、といった疑問や課題に対して、それぞれの教員が授業実践を通して提案していきます。どうぞ様々なご意見をお寄せ下さい。

最後になりましたが、これまでご指導ご援助下さいました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

新潟大学教育人間科学部附属長岡小学校 校長

伊野義博